

埼玉県地震概況（2025年5月）

熊谷地方气象台 2025年6月13日

（ここに掲載する震源要素は暫定値であり、後日修正されることがあります。）

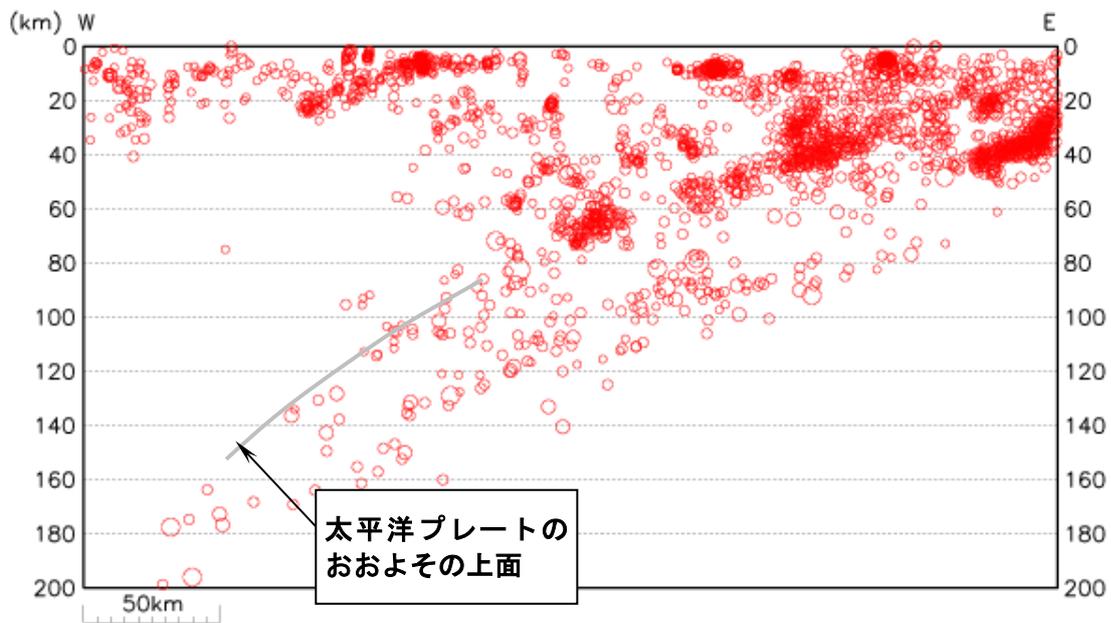
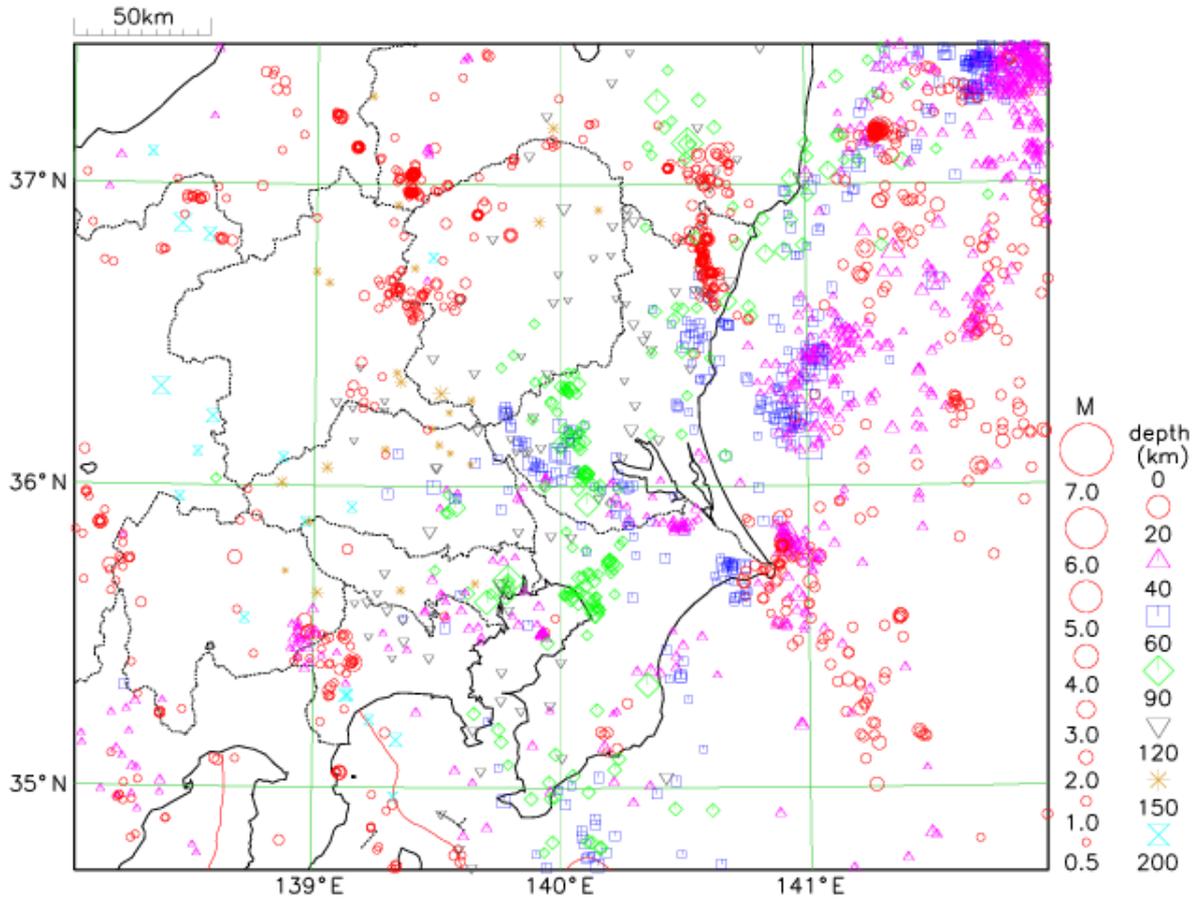
【概況】

今期間（2025年5月1日～31日）、埼玉県内で震度1以上を観測した地震は6回でした。
その他、特段目立った活動はありませんでした。

No.	地震の発生日時	震央地名	緯度	経度	深さ	規模	国内 最大震度	県内 最大震度
1	2025/05/04 12:35	東京都23区	35° 41.2' N	139° 47.1' E	82 km	M4.1	2	1
2	2025/05/07 09:47	神奈川県西部	35° 24.8' N	139° 09.6' E	11 km	M3.1	2	1
3	2025/05/13 08:33	茨城県南部	35° 56.4' N	140° 06.3' E	66 km	M3.9	2	1
4	2025/05/13 10:37	福島県中通り	37° 08.2' N	140° 31.1' E	79 km	M4.6	3	1
5	2025/05/15 02:05	茨城県南部	36° 06.7' N	139° 59.2' E	48 km	M3.4	2	1
6	2025/05/31 17:37	釧路沖	42° 19.6' N	144° 27.1' E	20 km	M6.0	4	1

【埼玉県周辺で発生した地震の震央分布図及び断面図 (2025年05月01日~05月31日)】

Mはマグニチュードで0.5以上、深さは200kmまでの地震を示しています。



【県内の震度観測状況】

*は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点です。

地震番号	震源 時 日 時 分 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	規模
1	2025年05月04日12時35分 震度 1：熊谷市大里*、熊谷市妻沼*、熊谷市江南*、加須市騎西*、加須市北川辺*、加須市大利根*、本庄市児玉町、東松山市松葉町*、鴻巣市中央*、鴻巣市吹上富士見*、久喜市下早見、久喜市青葉*、久喜市菖蒲*、久喜市栗橋*、久喜市鷲宮*、吉見町下細谷*、埼玉美里町木部*、川口市中青木分室*、川口市三ツ和*、川口市安行領家*、所沢市北有楽町*、春日部市粕壁*、春日部市金崎*、春日部市谷原新田*、狭山市入間川*、上尾市本町*、草加市中央*、越谷市越ヶ谷*、蕨市中央*、戸田市上戸田*、朝霞市本町*、志木市中宗岡*、和光市広沢*、新座市野火止*、桶川市泉*、八潮市中央*、富士見市鶴馬*、三郷市中央*、幸手市東*、吉川市きよみ野*、伊奈町中央*、埼玉三芳町藤久保*、川島町下八ツ林*、宮代町笠原*、さいたま西区指扇*、さいたま北区宮原*、さいたま大宮区天沼町*、さいたま大宮区大門*、さいたま見沼区堀崎*、さいたま浦和区高砂、さいたま南区別所*、さいたま緑区中尾*、白岡市千駄野*	東京都23区	35° 41.2' N	139° 47.1' E	82km	M4.1
2	2025年05月07日09時47分 震度 1：所沢市北有楽町*	神奈川県西部	35° 24.8' N	139° 09.6' E	11km	M3.1
3	2025年05月13日08時33分 震度 1：加須市騎西*、加須市北川辺*、久喜市下早見、春日部市粕壁*、春日部市金崎*、春日部市谷原新田*、上尾市本町*、越谷市越ヶ谷*、八潮市中央*、幸手市東*、吉川市きよみ野*、宮代町笠原*、さいたま北区宮原*、さいたま大宮区大門*、さいたま見沼区堀崎*、さいたま浦和区高砂、さいたま緑区中尾*	茨城県南部	35° 56.4' N	140° 06.3' E	66km	M3.9
4	2025年05月13日10時37分 震度 1：加須市騎西*、加須市北川辺*、加須市大利根*、東松山市松葉町*、久喜市下早見、久喜市鷲宮*、滑川町福田*、川越市旭町、川越市新宿町*、春日部市粕壁*、春日部市金崎*、上尾市本町*、桶川市泉*、北本市本町*、坂戸市千代田*、川島町下八ツ林*、宮代町笠原*、さいたま西区指扇*、さいたま大宮区大門*、さいたま中央区下落合*	福島県中通り	37° 08.2' N	140° 31.1' E	79km	M4.6
5	2025年05月15日02時05分 震度 1：春日部市粕壁*、春日部市金崎*、宮代町笠原*	茨城県南部	36° 06.7' N	139° 59.2' E	48km	M3.4
6 ※	2025年05月31日17時37分 2025年05月31日17時39分 震度 1：川島町下八ツ林*、宮代町笠原*	釧路沖 釧路沖	42° 19.6' N 42° 18.2' N	144° 27.1' E 144° 26.4' E	20km 12km	M6.0 M5.0

注：地震の震源要素（緯度、経度、深さ及びマグニチュード）、震度等は、再調査のあと修正することがあります。
※を付した地震については、近接した地域でほぼ同時刻に発生した地震であるため震度の分離ができないことを示します。

【情報・資料の閲覧・検索ご案内】

埼玉県地震概況に掲載していないデータや最新のデータについては、
気象庁ホームページ「地震の活動状況」(<https://www.data.jma.go.jp/egev/data/index.html>) や
熊谷地方気象台ホームページ (<https://www.data.jma.go.jp/kumagaya/>) をご覧ください。

■ 最新の情報・地震活動データ（一部は過去のデータも表示可能）

○震央分布

1週間前から本日（約1時間前まで）の、地震活動状況を掲載しています。

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=hypo>

○震源や震度等に関する情報

震度1以上を観測した地震について、地震の発生場所（震源）やその規模（マグニチュード）、各地の震度について発表した情報を掲載しています。

https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=earthquake_map

○長周期地震動に関する観測情報

長周期地震動による高層ビル内での被害の発生可能性等についてお知らせする長周期地震動に関する観測情報を掲載しています。

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=ltpgm>

○推計震度分布図

震度5弱以上を観測した地震について、各地の震度データをもとに震度を推計し、震度4以上を観測した地域の震度を面的に表現した図を掲載しています。

https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map

○津波警報・注意報・予報

発表した津波警報・注意報や予報のほか、津波の到達予想時刻や予想される津波の高さなどに関する情報を掲載しています。

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=tsunami&elem=warn>

■ 地震の観測データ・解析結果

○震度データベース検索

1919年から2日前までの期間で、過去に震度1以上を観測した地震を県別・観測点別に検索できます。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqdb/data/shindo/index.html>

○発震機構解（上段は速報、下段は精査後）

主な地震について地震を起こした断層がどのように動いたかを解析した資料を掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/mech/top.html>

<https://www.data.jma.go.jp/egev/data/mech/index.html>

○震源リスト

2日前までの地震の震源リストや震央分布図を日別に掲載しています。

https://www.data.jma.go.jp/egev/data/daily_map/index.html

○長周期地震動の観測結果

最新の観測結果から試行開始以降の期間における長周期地震動階級1以上を観測した地震リストなどを掲載しています。

https://www.data.jma.go.jp/eew/data/ltpgm_explain/rireki.html

・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

・本資料中で使用している地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

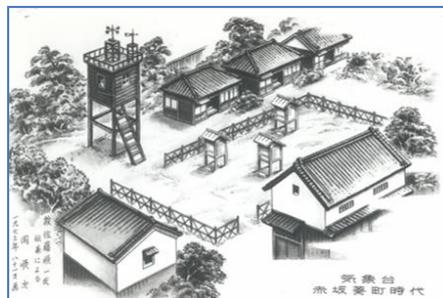
【防災一口メモ】

6月1日に気象業務は150周年を迎えました

明治8（1875）年6月1日、東京府第二大区（のち赤坂区）溜池葵町において内務省地理寮の東京気象台が気象観測及び地震観測を開始してから、令和7年で150年の節目の年となります。

気象業務のはじまり

明治8（1875）年6月1日、東京府第二大区溜池葵町の地理寮構内にて、「東京気象台」としての地震観測が開始されました。同月5日に1日3回の気象観測が開始されました。これにより、我が国における気象業務が幕を開けることとなります。右の図は明治初期の中央気象台の絵になります。



地震業務の歴史

明治8（1875）年に東京気象台が地震業務を開始した当時の地震観測は、人体感覚（体感）によるものでした。

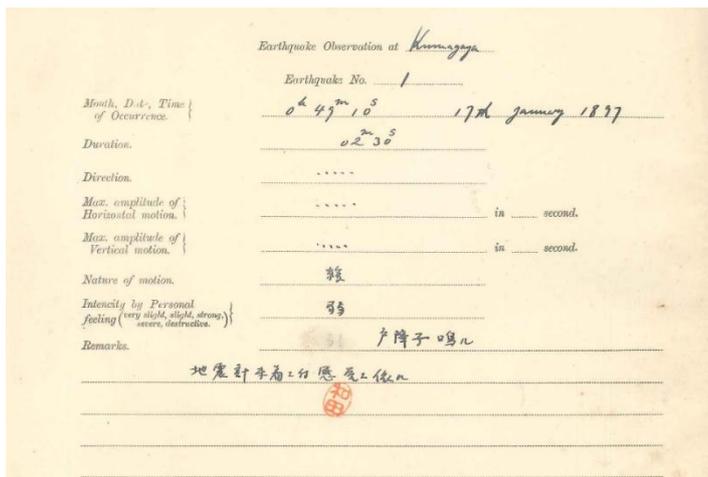
その後度重なる地震災害を受け、地震計の開発や改良を行い、明治時代から大正時代にかけて全国的に地震計などの観測体制を整えていきました。大正12（1923）年9月の関東地震前には地震計の設置官署は70近くに及びなど、機械式地震計による標準地震観測網は大正初期にはほぼ完成されつつありました。昭和中期以降には、電磁式地震計を用いてデータが自動で集約される等の近代化を遂げるなど、時代とともに機械観測や観測点の拡充等、地震観測体制の整備を進めてきました。

震度観測については、明治17（1884）年に全国的に開始することとなり、明治31（1898）年からは、震度階級は震度0～6までの7階級となりました。昭和23年に発生した福井地震をうけて、新たに震度7が加わったものの、体感による観測であることには変わりありませんでした。その後1990年代に計測震度計による震度の自動計測化とその集信が行われるようになりました。そして平成8年（1996）年10月には震度階級が従来の8段階から10段階となりました。

現在でも、継続的に地震のメカニズム解明や情報の精度向上が図られており、平成19（2007）年10月には緊急地震速報が導入されるなど、地震情報の迅速な提供等を行っています。

熊谷地方気象台での地震観測の歴史

熊谷地方気象台は、明治29（1896）年12月1日に埼玉県熊谷測候所としての気象業務などの業務を開始しました。熊谷地方気象台に保管されている地震の観測野帳によると、少なくとも明治30（1897）年には地震の観測を行っていたようです。右の画像は同年1月17日に観測した地震についての当時の野帳の記録になります。0時49分に観測し、揺れ方は「緩」やかであり、弱震（現在の震度2～震度3）だったようです。



関連リンク集

- ・気象業務150周年特設サイト（気象庁HP）
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/150th/index.html>
- ・気象業務の歴史（気象庁HP）
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/intro/gyomu/index2.html>
- ・熊谷地方気象台の歴史（熊谷地方気象台HP）
<https://www.data.jma.go.jp/kumagaya/shosai/annai/rekisi.html>



歩み続けて150年
防ぐ災害・守る未来